

ほけんだより 7・8月



2022/7/1 厚生館保育園

6月の初旬に梅雨入りが発表されましたが、6月24日ごろから梅雨明けを思わせるくらいの晴天となり、のきなみ各地で35℃以上の猛暑となりました。25日、26日の週末には都内で熱中症による救急搬送が200件を超えたと発表されました。そしてあつという間の梅雨明け宣言！！

これから7月、8月と夏本番となり、例年以上に猛暑が予想されているようです。下記に熱中症についての記載がありますので、参考にさせていただけたらと思います。

子ども達にとっては、待ちに待った夏、海やプール、水遊びの季節になりました。元気に遊ぶ姿が目には浮かびますね♡♡

・・・今年の夏は咽頭結膜熱が流行すると言われています！！

流行時期は夏期で、プールでの感染があることから「プール熱」とも呼ばれます。

病原体はアデノウイルス、感染力は非常に強く、くしゃみや咳のしぶきで感染する“飛沫感染”と手やタオルなどを介して感染する“接触感染”です。

名前の通り。発熱を伴う、咽頭炎と結膜炎の3主症状とし、その他、リンパ腺の腫れ、腹痛、下痢を生じることがあります。症状は1～2週間で収まります。

その他にも夏期に流行する感染症として、手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑（りんご病）があり、8月に入るとRSウイルスの流行期になります。乾燥時期に活発になるウイルスもありますが、夏のじめじめした時期に活発なるウイルスもあるので、お子さんの体調の変化には十分気をつけるようお願いいたします。

手足口病は飛沫感染、糞口感染（経口）、接触感染で、回復後も呼吸器から1～2週間、糞便から2～4週間に亘り排泄されます。

排泄物の取り扱いに注意するとともに、手洗いを励行しましょう。

プール、水遊びが開始される中、手足口病、ヘルパンギーナも同様の感染なので、かかった場合は保育園の出席停止はありませんが、プール遊びを感染後、程度により1、2週間はお休みしていただくことになります。・・・感染症ガイドラインから

RSウイルス感染症について一言

感染症ガイドラインによると、夏期から初春にかけて流行期があり、非常に感染力が強く生後6カ月未満の児は重症化する感染症と言われています。一度の感染では終生免疫を獲得できず生涯にわたって感染と発病を繰り返します。年長児や成人が感染しても症状が軽く、単なる風邪で終わってしまうことも、しかし、感染源になりうることもあるので、こまめな手洗いと咳エチケットが必要です。

熱中症に注意しましょう・・・

熱中症とは、高温多湿の環境下で体内の水分や塩分（ナトリウム・・・）のバランスが崩れたり、体温の調節機能がうまくはたらかず、体に熱がこもり、大量の発汗から突然汗が出なくなり、吐き気、倦怠感などの症状が現れます。重症化すると、意識障害を起こし、死に至る危険性があります。また、熱中症は梅雨の合間に突然気温が上昇した日や、梅雨明けの蒸し暑い日など、からだ暑さに慣れていないときに起こりやすく、特に注意が必要です。

予防

○外で遊ぶ時は、なるべく日影の涼しい場所を選びましょう。

○休息と水分補給をこまめにとりましょう。

○通気性がよく、襟元にゆとりのある服を着ましょう。太陽光の下では、輻射熱を吸収して暑くなる黒色系の服は避けましょう。

○つばの広い帽子をかぶり、日影では帽子を脱いで、熱がこもらないようにしましょう。

熱中症が疑われたら

○涼しい場所に移動し寝かせ、衣服を緩める

○少量の水分（経口補水液、イオン飲料）をこまめに与える

○からだを冷たいタオルで拭き、うちわなどで扇ぐ。

○首やわきの下、足の付け根に冷たいタオルを当てて、体を冷やす。



※呼びかけても反応がない、ぐったりしている、水が飲めない、体温が40℃を超えている、けいれんを起こす・・・**救急車を呼びましょう。**

7月8月保健行事

7/11（月）0才児健診

7/12（火）身体測定（2～5才児）

7/13（水）身体測定（0.1才児）

7/8、15（金）地域ベビーマッサージ・育児相談

8/2（火）身体測定（2～5才児）

8/3（水）身体測定（0.1才児）

8/19（金）0才児健診

8月は、地域ベビーマッサージはお休みです。

